

「途上国における職業訓練システムの変化」

アン・リッチモンド

ILO アジア太平洋総局東アジア地域事務所 技能開発専門家

要旨（和訳）

本講義は学術的というよりはむしろ、実践的な観点から行う。手始めに、新しい教育のビジョンを提案するにあたり、「教育とは何のためにあるのか？」を考える。若者の失業など、教育と結びついた問題を検討し、教育の目的の一つは、生涯を通して適正な雇用を確保し維持できるように個人を育むことであると言いたい。この提案を一つの新たな教育のビジョンとして推し進めるために、講義は、国連が教育と訓練の分野でどのような役割を担い、国別および世界全体で、教育におけるミレニアム開発目標達成に向けてどれだけ前進しているか、を取り上げる。国連機関の中でも特に、国連教育科学文化機関（UNESCO）と国際労働機関（ILO）のこの分野における役割と提言を扱う。

生産的で適正な仕事に就けるように個人を教育するのに効果的な教育の新しいパラダイムを提案する立場から、この視点が国際レベル、国レベル、そして訓練システムレベルでの教育観にどう影響するかを見ていく。技術的職業的教育・訓練は、新しい教育パラダイムのもとではその重要性と価値がより高く評価されるかもしれないが、この職業訓練を一つの教育と見なすケースを紹介する。具体的には、モンゴルとラオスの事例に触れ、国連の役割について述べる。

最後に、教育の「新しいパラダイム」をもとに、国のレベルで必要とする教育・訓練をどのように把握し、教育・訓練システム全体の中で、個々の必要性にどう対処したらよいか、考える。労働市場情報、訓練の質、技能認知・認定、財政援助、統治（関係者間の責任分担・運営）の五つの項目に焦点をあて、新しいパラダイムがどのように教育政策や実践に変化をもたらすことができるかを検討する。結論として、新しい教育のパラダイムは、問題を新たな角度から見ることで新たな解決策を編み出すのに役立つであろうとの提言に導く。